



REAR【背面】

2

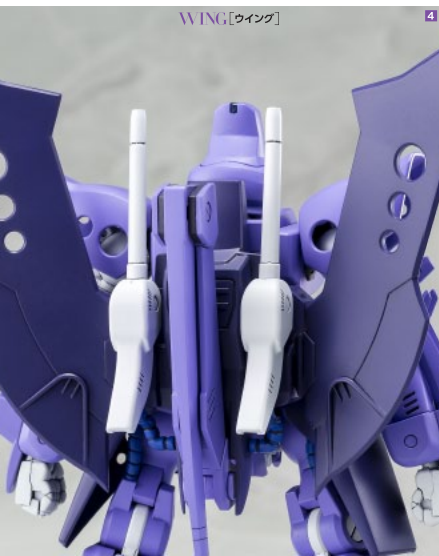


FRONT【前面】

1

■RX-130BANルワン氏の新たな相棒、ハンブラビスバン(以下、スパン)の前、側、背面。ベース機のハンブラビスが持つ異形感から、細身の人型MSとしての印象を素直に受け取れるシルエットへと変換している。

■背面のウィングバンダーは形状変更し、前進翼に改められた。この箇所に限らず、新規パーツには装甲部分の穴抜き工作を行い、全体的な機体軽量化が図られているようだ。



WING【ウィング】

4



SIDE【側面】

3

[RX-130BAN ハンブラビスバン]

製作：ス/ルワン・ダラーラ

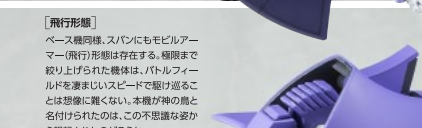
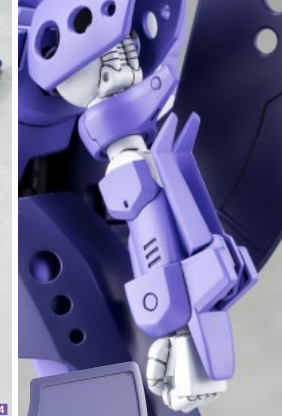
第8回ガンプラバトル選手権世界大会の総力特集はまだまだこれからだ。今回はガンプラバトルファンにはおなじみの世界大会常連選手、タイ代表のルワン・ダラーラ氏による新作ガンプラを徹底解剖。常に勝利のための努力を惜まず、全力の戦いを見せてくれる氏に倣って、編集部もそれに負けないほどの全力紹介でお送りしよう。1/144 SCALE PLASTIC KIT "HIGH GRADE+SCRATCH" BY LUANG DALLARA



舞い降りる神鳥
เทวปกษากลาลม
ฮัมราบี สุบรรณ



Vol.29



【飛行形態側面】
飛行形態の裏側。この角度から見れば、まさに神話に登場する伝説の生物の如しである。変形機構自体は、ベース機から変わっていない。

【飛行形態】
ベース機同様、スパンにもモビルアーマー（飛行）形態は存在する。極限まで絞り上げられた機体は、バトルフィールドを漂ましますスピードで駆け巡ることは想像に難くない。本機が神の鳥と名付けられたのは、この不思議な姿から想起されたのだろうか。

【MS形態】
フェーゲンライフルを構えたスパンは、どこか長槍を構えた西洋の騎士のような印象を受ける。ルンツの正々堂々としたスポーツマンシップを体現しているかのようだ。

■背部ビームライフルは発射速度が速く、飛行形態でのメインウェポンとなる。
■ビームサーベルは本来機体バランスを取るためのスタビライザーだが、格闘戦において相手の装甲を貫くほどの強度も持ち合わせている。
■腕部クローは飛行形態での真骨髄を発揮する。機体速度が加われば、その破壊力も増して知るべしだ。
■まるでこちらが対戦相手になったような迫力の真正面。世界レベルの強さとは、このような静止状態にあってでも十分に伝わるものなのだ。
■飛行形態の前面。シンプルな変形機構だが、驚くほどの機能変化をもたらせる。

■スパンの印象をベース機から一番大きく変えた最大の要因が、新型ヘッドユニットだろう。このベース機はスタイルへと変更した理由をルンツに聞いた。「複数のモアイを利用した方式より、私自身の運動神経と動体視力を活かして対象物を即座に見るやり方が、バトルスタイルに合っていたからだ」
■腕部の新「パーツ」にも軽量化用の穴抜き加工が大胆に施されている。「ただ開けば良いというわけじゃなく、防護性能を必要以上に低下させない最適な位置に開孔することが重要なんだ」
■可動式のクローを備えた腕部はベース機の良さを活かす。そのまま採用している。
■ビームサーベルは両手首に内蔵されているため、ルンツの優れた反射神経が加われば、相手の予想を超えたスピードでビーム刃を突き刺さることが可能だ。
■射出出力のビーム兵装、フェーゲンライフル。ベース機だけでなく、他のライティング機でも使用された優秀な飛行兵器である。
■スパンのニューエポン、ウイングトマホークは、なんとベース機のウイングバインダーを流用している。

舞い降りる神鳥
เทพปักษีกาลม
อัมราณี สุบรรณ



3

RX11300BANN ハンブラビスバン
 製作: 矢野 龍成

本気という言葉は、私はとても大切に思っている。ガンダムトールに限らず、人と人が決する。腕技で常にベストを尽くさなければ、それは対戦相手にも、もちろん観客にも、さらけ言わずにすべての力を引き出させてやれなかつた自分の肉体に対しても失礼に当たると考えているからなんだ。

まもなく開催される第8回ガンダムバトル選手権世界大会。そこで使用する私の新たなガンダムも、全身蓋蓋をかけた本気の仕上げがりて臨んでいる。前大会で使用したアヒルパイは重装甲を活かした機体だったけど、今回は機動性つまりスピードを重視したスタイルへとシフトしたんだ。

でも、それは大量のスラスターを装備したベース機を選ぶべきという単純な話じゃない。推力と機体重量のバランスに優れた、高速可変タイプのモビルスーツ……私の要求を満たす機体は『機動戦士ガンダム』に登場したハンブラビをにおいて他に無かったんだ。

シンプルな可変シークエンスというのが、またいい。バトル中に変形を多用する場合、機構が複雑なほどイレギュラーに見舞われるけれど、これはアヒルパイにも言えるが、あらゆる要素で私の意思を純粹に伝えられるものが一番好きなんだよ。

工作的には装甲部の穴抜きを行い軽量化を、一体式のヘッドユニットは首を新造し、オッドトックスな方式に改めている。背面の翼は前進型に形状変更したことで、空戦格闘時の機動力は大幅にアップした。その分、高速域の安定度は低下しているけど……そこは私の腕の見せ所ってやつだね。

ハンブラビの個人的な姿は、ディターンズという組織的なイメージも手伝って、どこか悪質な印象を抱く人も少なくないと思う。しかし、実際に触れた私からすれば、そもそもそう思えなかつた。だから、このガンダムには相応しい名を加えよう。私の本気を預けられる神の賜、スハバ。

このハンブラビスバンがのちにバトルフィールドを舞うのが、皆も楽しみにして欲しい。そして私だけでなく、全ての選手を本気で応援して、この大会を盛り上げて欲しいと心から願う。ありがとう。

舞い降りる神…鳥

เทพปักษาลาลม

ฮัมราบี สุปรรณ

■ルワン氏は元々野球のプロ選手という異色の経歴を持つ。スポーツマンである彼は、機体や作品のこだわりよりも性能を使い勝手を重視するというが、このスバにもアスリートのようなガンダムへと鍛え上げられた。

■ウィンドマホークには発端ながら無敵な格に開けられており、プラスチック一位子で構成されたバトルフィールドを移動することによって柱子を武装内部に詰め込み、最大砲撃時には必殺の技を繰り出すことができるらしい、一体どのような技なのだろうか。

■「必殺技?」はは、落石にこそまで明かしてしまうのは、いくらサービス精神の豊かにならてもためられるよ。スバ・セン・ウワン……この言葉だけ覚えていてくれれば、それでいいとルワン氏、どこかにタイの言葉に詳しい方、いませんか?

るわんだらーら……近況/ガンダムに限らず、日本のアニメーションは素晴らしいものばかりだ。特にリアルロボットの美いデザインの数々に感動に感動した。過去の作品群には、字がところも多い。まさに「サー」とまとった、まさに「ヒー」な名作だよ。



1

2



J・イシガキ氏による デザイン稿が届けられたぞ!!

ご存じガンダム界のガッキーことJ・イシガキ氏によるハンブラビスパンのスケッチを公開! 海外ドラマ好きのイシガキ氏へ、ルワン氏はタイの人気ドラマをオススメしていたぞ!!

HOBBY
HOBBY

อิมเมจลิ่งบิลเดอร์ส!
SPECIAL!!!!!!
11-2271014123

Vol.29

